

九州の森と林業

No.155 2026.3

九州のクリハラリス（タイワンリス）

森林動物研究グループ 安田 雅俊

はじめに

外来種のリスが関東以西の各地に定着し、問題となっていることを知っていますか？

クリハラリス *Callosciurus erythraeus* は東南アジアから中国、台湾を原産地とする昼行性（昼間に活動する習性）の外来種のリスです（写真1）。戦前に台湾から輸入されたため、タイワンリスとも呼ばれます。クリハラリスは、生態系や農林業に大きな被害を及ぼすおそれがあることから、外来生物法における特定外来生物に指定されており、2005年以降は原則として輸入、飼養、野外への放逐等が禁止されています。しかし、すでに関東、中部、近畿、九州といった気候が温暖な地域で野生化しており、少なくとも17都府県で確認されています（消滅した個体群を含む）。多くの地域では行政が防除（捕獲）を行っています。



写真1 誘引餌を食べに来たクリハラリス。クリの実とオレンジ色のピンポン球を組み合わせて誘引餌とした。2025年、香崎市にて撮影。

クリハラリスの特徴

クリハラリスは、繁殖力と適応力が高く、好適な環境では生息密度が高くなりやすい生物です。食性の幅が広く、植物では花や果実、種子、樹液等、動物ではさまざまな昆虫類や鳥類の卵等を食べます（田村 2025）。そのため生態系や農林業の被害を引き起こしやすいのです。

クリハラリスの生息を調べる方法はいろいろありますが、そのなかでも「環状食痕」を探す方法（安田ほか 2024）は特別な機材を必要としない点で優れています。環状食痕とは、クリハラリスが切歯で樹木の幹や枝の樹皮を環状に剥ぎ、そこからしみ出す樹液を摂食したあとに残る本種に特徴的な食痕です。ただし、環状食痕は数年以上も残るため、過去に本種がその地域に生息していたことはわかりませんが、新鮮な環状食痕が見つからない限り、現在の生息状況はわかりません。

本州では、クリハラリスが分布拡大し、在来種のニホンリス *Sciurus lis* の生息地に侵入しつつある地域があります。ニホンリスとクリハラリスは近縁ではないため交雑はしませんが、食物をめぐる競争することが懸念されています。

なお、九州では近年ニホンリスが確認されていません（安田 2007）。そのため、九州で昼間に何らかのリスを見た場合はほぼ確実に外来種と言えます。

九州各県の現状

クリハラリスは鹿児島県を除く九州6県に生息しているか、かつて生息していました。私たちが収集してきた各地の状況を以下に簡単に紹介します。

福岡県

2006年、久留米市において3頭の捕獲記録があります(安田 2017)。個体の由来は不明です。その後の生息情報はありません。

佐賀県

2025年、武雄市の森林で複数のヤブツバキ *Camellia japonica* の樹幹に古い環状食痕が初めて確認されました(安田 2026a)。ここから長崎県境までは直線距離で1.5kmしかありません。個体群が存続していれば、隣県への分布拡大が懸念されます。近くには、国から許可を得てクリハラリスを長年飼養している観光施設(営業期間1992年～現在)が今もあります(安田 2026a)。

長崎県

2025年時点で、壱岐島(壱岐市)と五島列島の福江島(五島市)に多数のクリハラリスが生息しています。2001年度～2024年度に、壱岐島では計28.1万頭、福江島では計4.8万頭のクリハラリスを捕獲しました。毎年多数を捕獲しているものの地域根絶には至っていません(図1)。1990年代、両島にはクリハラリスを飼養する観光施設がありました(安田 2017)。

また2007年、島原半島で1頭の捕獲がありました(小寺祐二、私信)。環境省が2013年

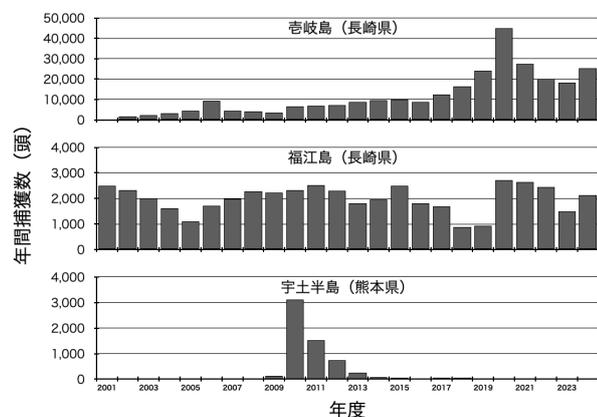


図1 九州におけるクリハラリスの年間捕獲数の推移。情報源：壱岐市、五島市、熊本県。

度に行った調査の報告書には、この地域における外来リスとみられる複数の目撃情報が記されていますが、現状はよくわかっていません。かつて島原半島には、クリハラリスを含む数百頭の外来リスを飼養する大規模な観光施設(営業期間1988年～2004年)がありました(安田 2017)。

熊本県

2008年、宇土半島西部において初めてクリハラリスの生息が報告され、2010年度から宇城市、宇土市が熊本県とともに本格的な防除を始めました(安田 2017)。環境省の地域生物多様性保全活動支援事業等を活用し、2024年度までに計6117頭を捕獲しました。直近3年間の捕獲数は計2頭と大幅に減少しています(図1)。現在、私たちは、行政と連携して地域根絶の確認を行っているところです。宇土半島には、かつてクリハラリスを飼養する観光施設(営業期間1993年～飼養終了年不明)がありました(安田 2017)。

大分県

1955年、無人島の高島(大分市)に、観光資源とする目的で、伊豆大島(東京都)から購入した6つがいのクリハラリスを大分県が放しました(安田 2025)。その後、この島のクリハラリスは数十年間放置され、高密度となったクリハラリスが島の生態系に大きな影響を与えていました(関・安田 2018、安田・野宮 2019、上田ほか 2025)。そこで私たちは、2018年度から箱ワナによる捕獲と化学的防除を組み合わせた集中的な防除を行い、約1700頭のクリハラリスを島から除去しました。2022年度の3頭の捕獲を最後に、連続3年間にわたってクリハラリスは確認されておらず、地域根絶を達成した可能性が高いと考えているところです。ここでの防除は、行政主導ではなく、本機構の研究費と外部資金(科研費、環境研究総合推進費、寄附金)によって実施されました。

また2021年、別府市において種不明の外来リスが自動撮影カメラで初めて確認され、その後、捕獲個体の遺伝解析によりクリハラリスであることが確認されました。2022年度に捕獲作業が開始され、2024年度末までに有志と行政が計48頭を捕獲しました(森田ほか

2025)。この地域には1953年度～1967年度にクリハラリスを飼養していた観光施設がありました(安田・田村 2025)。

宮崎県

2001年、霧島山北麓(小林市)においてクリハラリスの死体が拾得され、2002年に4頭の捕獲がありました(安田 2026b)。環境省が2013年度に行った調査では、環状食痕が1地点で見つかっていました。そこで2024年度に再び調査を行ったところ、新たに5地点でヤブツバキ、タブノキ *Machilus thunbergii*、ヤブニッケイ *Cinnamomum yabunikkei* に古い環状食痕が見つかりました(安田 2026b)。ここから鹿児島県境までは直線距離で7.5kmしかありません。個体群が存続していれば、隣県への分布拡大が懸念されます。この地域には、かつて外来リス等を飼養する観光施設(2000年頃閉鎖)がありました(安田 2017)。

今後の対策は？

特定外来生物クリハラリスについて、今後どのような対策が必要となるのでしょうか？

第一は、特定外来生物の観光利用のあり方を見直すことです。上に紹介した事例のほとんどで、飼養個体の逸出(逃げ出し)や放逐が疑われました。本種は少数の個体が逸出しても野外に定着できることが指摘されています(安田・田村 2025)。そこで、飼養の適正化とともに、飼養個体に個体識別用のマイクロチップの埋め込みを義務化することで、飼養者の責任を明確にすることが望まれます。

第二は、個体群のコントロールです。2023年の外来生物法の改正により、地方自治体は、定着した特定外来生物の対策を積極的に行うこととなりました。私たちが作成した「クリハラリス防除マニュアル」(安田ほか 2024)を参照することで、より効率的な防除が可能となるでしょう。

第三は、外来リス類の警戒網の構築と運用です。といっても、難しいことはありません。先に述べたように、九州には在来種のニホンリスが生息していません。ということは、今日あなたが野外で見たリスは外来種かもしれません。あなたの通報が外来種対策を進める力となります。ぜひ、お近くの役場の担当部署に連絡をお願いします。

引用文献

- 森田祐介・宮村栄一・安田雅俊(2025) 大分県別府市における特定外来生物クリハラリスの防除—2025年3月までの状況—. 大分自然博物誌 6: 16–20.
- 関伸一・安田雅俊(2018) 鳥類の擬巣における外来のクリハラリス *Callosciurus erythraeus* による卵捕食. 哺乳類科学 58: 33–40.
- 田村典子(2025) となりのクリハラリス. 東京大学出版会.
- 上田明良・後藤秀章・佐山勝彦・金谷整一・安田雅俊(2025) 特定外来生物クリハラリスの生息する小島と生息しない対岸の半島における昆虫相の比較. 森林総合研究所研究報告 24: 151–170.
- 安田雅俊(2007) 絶滅のおそれのある九州のニホンリス、ニホンモモンガ、およびムササビ. 哺乳類科学 47: 195–206.
- 安田雅俊(2017) 九州に定着した特定外来生物クリハラリスの由来と防除. 森林野生動物研究会誌 42: 49–54.
- 安田雅俊(2025) 高島のクリハラリスは1955年6月4日に導入された. 大分自然博物誌 6: 86–87.
- 安田雅俊(2026a) 佐賀県西部におけるクリハラリスの生息痕跡の発見と防除の課題. 哺乳類科学 66: 63–66.
- 安田雅俊(2026b) 霧島山北麓のクリハラリス個体群-生息痕跡と防除の課題. 哺乳類科学 66: 57–62.
- 安田雅俊・野宮治人(2019) 外来種クリハラリスによる樹木の剥皮被害: 大分県高島の事例. 大分自然博物誌 3: 93–95.
- 安田雅俊・田村典子(2025) 日本の動物園における過去のリス科動物の飼育記録の分析と外来リス類のリスク管理. 哺乳類科学 65: 111–128.
- 安田雅俊・田村典子・森澤猛・鳥居春己(2024) クリハラリス防除マニュアル. 哺乳類科学 64: 89–94.

樹木病害シリーズ (14)

森林微生物管理研究グループ 石原 誠

トキワマンサクこぶ病

トキワマンサク (*Loropetalum chinense*) はマンサクに似たひも状の花を咲かせる、マンサク科トキワマンサク属の常緑低木です。この属は中国に3種が存在して分布の中心をなし、日本にも、1種が静岡、三重、熊本に限定的に自生しています。庭木・生け垣として好まれ、特に紅色の変種に人気があることから、盛んに栽培されるようになりました(写真1)。



写真1 トキワマンサク

ところが、2007年頃から、トキワマンサクにこぶを形成する病気が、福岡や愛知、神奈川の栽培業者の苗畑で発見され、2009年に *Pseudomonas* 属による細菌病であることが、接種試験により判明し、こぶ病と命名しました(石原・小河 2016)。

一方、2012年にアメリカの栽培地でも、同様のこぶ病が見出され、*Pseudomonas amygdali* の新しい病原型 *pv. loropetali* と同定されました(Harmon *et al.* 2013)。その後の比較分析の結果から、日本の病気も、アメリカで見つかったものと同一であることが予想されました。

九州支所が存在する立田山にトキワマンサクは自生していませんが、生け垣には良く使われる樹種なので、周辺人家では時折、花を

見ることがあると思います。本病の症状として、苗では枝に多数の小さなかいようやこぶが発生し、それらが肥大していきます。こぶ表面は粗造で脆くなって地際から折れやすくなるため鑑賞価値が失われます(写真2)。

一時は主たる育成地から植栽地に被害が広がる様相を見せましたが、細菌病であるとの注意を喚起した結果、育成地では灌水を絞って過湿を避ける、剪定によって過繁茂を防ぎ、通風を良くするなど、栽培上の工夫に務めたことで、病気の発生と拡大は概ね防げるようになっています。



写真2 トキワマンサクこぶ病 1:地際主軸部の折れ被害(矢印) 2, 3:枝上に発生したこぶ(矢印) 4:病原細菌のコロニー

引用文献

Harmon CL *et al.* (2013) Bacterial Gall of *Loropetalum chinense* caused by *Pseudomonas amygdali* *pv. loropetali* *pv. nov.* Plant disease. 102(4): 799–806

石原誠・小河誠司 (2016) トキワマンサクこぶ病(新称)の発生. 日本植物病理学会報 82(3): 277–278

地域連携推進室から

令和7年11月17日(月)、くまもと県民交流館パレアホールにて、「国有林発！新しい造林技術の開発と実践」と題し、宮崎大学農学部連携協定締結記念令和7年度九州地域公開講演会を開催致しました。

多数のご来場をいただき、誠にありがとうございました。

本講演会で九州支所職員が発表した2つの講演について、期間限定でYouTube森林総研チャンネルにて配信しておりますので、ご視聴ください。

<https://www.ffpri.go.jp/kys/research/happyo/index.html>

九州の森と林業 No.155

令和8年3月1日

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所九州支所

〒860-0862

熊本県熊本市中央区黒髪4丁目11番16号

Tel 096 (343) 3168 (代)

Fax 096 (344) 5054

ホームページ

<https://www.ffpri.go.jp/kys/>



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。